

6月12日(土)大人塾開講講演

平成22年度「すぎなみ大人塾」開講記念講演会

タイトル：減の時代の発想力 明るい未来宣言

講師：すぎなみ大人塾アドバイザー 林光 ナレッジファクトリー代表

日時：平成22年6月12日(土)14時より 於：セシオン杉並

1 林光さん

こんにちは。今ご紹介をいただきました林です。

「減の時代」の新・マーケティング戦略」と言う本を出しました。プレジデント社という出版社から出しました。今皆さんご存知のとおりでTV等でも言われていますが、出版業界は大変な不況です。本が売れない、活字離れなどと言われて久しいです。ところが良く考えてみると、例えば皆さんの中には、TwitterやMixi、ご自分でブログ等でインターネットの中に沢山の字があるのです。

活字離れと言っておきながら、確かに活字は紙に印刷をして書いてあるものからは少しは離れた方がいるかもしれませんが、字は沢山出ているのです。見ているだけではなく、字は自分で発信する。今までは字を発信するのは、一部の作家やコラムニスト等という方は別にして、ほかの方はせいぜい手紙と日記くらいでした。今や多くの方々の目に留まるようなインターネットやEメール等を通じて世の中に発信ができるようになっていきます。

つまり、文字を読んだり書いたりを流したりが昔に比べると何十倍にもなっています。世の中はその様になっている。しかもそれが様々な道具のインターネットや携帯電話や様々な社会の中で出てくる新しい道具を使って人々の暮らしが変わって行く。そうしたところを受けて当然ながら、自分も変わらなくては行けないと言う事がありまして、いろいろな試みがなされているわけです。

話を元に戻しまして、この本の中にはマーケティングの事はほんの少々しか書いてありません。プレジデント社という出版社は「プレジデント」と言う雑誌を出しています。経済評論家だった藤原さんが社長をなさっています。出版不況の折から経済評論家のくせに活字離れと言う事を信じて「我がプレジデント社には読者はいないのだ」と、マーケティングと言う名前をつければわが社はその方面に強いから長い間置いておけると言う事でこの様な書面になってしまいました。マーケティングなどあまり頭に無いままに書き始めたものなのでした。今が異常と考える事から世の中を始めようでないか。今が異常と言って見ても、異常な人達が多いと言う話ではありませんので、今の日本と言う国のあり方とか、例えば人口です。資料にあるように127,767,994人と2005年の直近の国勢調査による日本の人口です。

ちなみにこの国勢調査というのは、5年おきに行われますので、2010年今年の秋には調査が行われます。国勢調査の本調査は10年おきに行われ、その間に2回後調査が行われます。この秋には国勢調査が皆さんの手元にも、国勢調査は世帯調査ですので各世帯に1セットの調査票が配られ、それを記入して提出します。

6月12日(土)大人塾開講講演

アンケート調査は町の街頭で「アンケート調査にご協力ください」とか、「いや、私忙しいから」と簡単に拒否することが出来ますが、国勢調査だけは拒否できません。統計法と言う法律によって、妨害したり正当な理由無しに拒否したりすると罰則規定があると言う唯一の調査なのです。

何故その様な調査があるのかと言うと、文字通り国の勢いの国勢調査でありますから、実際にこの日本と言う国がどのような形をしているのか、形をしているといっても国土の形ではなく、人々の形がどのようなになっているのか、男性が何人いるのか、女性は何人いるのか世帯は何世帯あるのか、この世帯がいったいどのような家に住んでいるのか、どのような地域に住んでいるのか、どのような働き方をしているのかと言う非常に多くの特性に関して調査をしています。

ですから総てこの調査は調査の元であります。つい先日厚生労働省の方から発表になっておりますが、人口動態統計という離婚したとか結婚したとか子供が生まれたとか死んだとか等の調査があります。これはもっと頻繁にしております。その他あわせて日本の特に人の形を決めているのであります。

国勢調査というのは、世帯の調査ですので、現在日本には1億3千万弱の人々が約5000万の世帯を構えています。ここにお集まりの方々のご家庭がいったい何人ご家族がいらっしゃるのかと言うのは、それぞれ大家族で3世帯或いは3、4世帯が同居と言う方もいらっしゃるかも知れませんが、或いはお独りでお住まいになられている方もいらっしゃるでしょうけれども、統計的にみまると今の日本でもっとも多い世帯類型は独り暮らしなのです。独り暮らしというと昔は、親元にて就職をしたとか或いは大学に行ったとかで自分が住んでいるところでは無い地域で学校に入ったので家を出たなどの形の独身貴族とか呼ばれるような若い世帯が独り住まいで結婚するまでの間を独りで住んでいる人達が典型的な独り住まいでした。

今、町で独り住まいの方の住居と言う形で動議されている所謂ワンルームマンションですが、圧倒的に弱年齢層用の独り住まいの物が多いです。仕事をするでしょうからインターネットを引いてありますよと、生活材とかその様なものをあまり持ってこなくても家具等は用意してあります等、初めて世帯を構えるような若い年齢層の人が住むことが前提のワンルームがほとんどです。

しかし、きちんと調べてみると現在の日本の独り住まいのうち、所謂高齢で独り住まいをしている方の方がずっと多くなってきています。その方々は既に家を持っている或いは部屋を持っている。その部屋の中には当然ながら、什器が全部そろっている。同じ独り住まいでありながら、新しく家を構える若い人たちの独り住まいと、さあこれからご夫婦と一緒に楽しく暮らそうかと言う内に片方がさよならしてしまった状況の方、或いは定年離婚された等、いろいろ事情はあるでしょうが独り住まいになってしまった方と両方いるわけです。

世の中で用意されている入れ物とか、独り住まいというイメージで色々なところで報道

6月12日(土)大人塾開講講演

されるのは、どうしても若い者ばかりです。

世帯類型の2番目、昔は標準世帯と言われた2人の親と子供がいる世帯が標準世帯と言われています。標準世帯の世代には、この世帯は全世帯の3分の1くらいでした。

例えばこれから税金が変わりますと、色々な変わり方をするとときにモデルケースとして、例えば標準世帯でどの位増えるのか減るのかを計算してみましょと新聞の紙面に載るときには親が2人いてそこに子供が2人いると言う4人家族を例にとって計算して見ましょというの載っていました。

ところが3年ほど前にこの4人家族の世帯は2番目に落ちて、1番目が独り住まいになりました。その他に世帯類型と言うのは、独り住まいと親2人と子供2人、親1人と子供の世帯と言うのが一見すると、所謂母子家庭、最近では父子家庭が増えましたが、子供が若齢児という家庭が思い浮かばれるのですが、今の高齢化社会では子供が60歳の父子家庭という形が非常に増えています。

親世帯と子供世帯という事になるのですが、実は両方とも高齢者で老々介護と言われる世帯が増えています。そのほかは夫婦だけの世帯が3番目の世帯になります。夫婦だけの世帯の昔は、新婚世帯が中心でした。夫婦だけ世帯は多くの場合は共働きをしていて、ダブルインカム昔はディンクスと言われました。ダブルインカムですから両方が稼いでいて、子供がいないので全部を自分たちで使える。海外旅行へ行こうが車を買換えようが結構自由に出来ますよと、所謂裕福系の典型が夫婦だけの世帯でした。

それは子供が生まれるまでのそれ程長い期間ではありませんが、自分達の為だけにお金を使えると言われていましたが、夫婦だけの1番多い類型は特に旦那様が定年を迎えて子供が独立してしまつて所謂エンブティインセプトと言われる子供たちが独立した後の両親です。これは先行の世帯とは違って収入も限られているし、買い物も新しく買いそろえる必要がないのです。

今まではディンクスという大人だけの家庭で、世の中の会社は狙っていたのですが、今はこういう形になって世の中全部がその様な形で今までの形とは違う姿をした人達が増えました。そういった事を調査するのが国勢調査なのです。国勢調査という物を持って日本と言う国がどの様な形をしているのかをきちんと整頓をしています。

最近の結果として出ている調査としては、今現在127,767,994人プラスマイナス少し減っていますけれども人がいます。お手元の資料に現在平成20年、平成22年2010年日本の平均年齢は45.1歳です。ちなみにここにいらっしゃっている方で45歳の方はいらっしゃいますか?いらっしゃったらお手を上げて下さいお2人ですか。これが今の日本の平均です。ちなみにこれをずっと遡りまして、私自身団塊の世代で昭和22年1947年の生まれですが、この頃の日本の平均年齢は27歳くらいでした。まだまだ若い国家だったのです。

世界の国家を見ると、アフリカ諸国とか南米諸国等、平均年齢の若い国家は沢山あります。若い平均年齢の特徴と言うのは、平均寿命が短いと言うことです。平均寿命と言うのはちなみに平均余命表と言うのがありまして、これは0歳の人から100歳の人まで何年く

6月12日(土)大人塾開講講演

らい平均生きられるのかと言う事が示されている表です。このうちの0歳の平均余命がその国の平均寿命と言います。

日本では男女平均80歳です。これは世界1のナンバーワントップレベルです。昔から日本はその様に長寿だったのかと言いますと、実はそうではありません。戦争があったときの影響を考えなくても、終戦の昭和20年くらいの平均寿命は50数年でした。それがあれよあれよと言う間に伸びて行って80歳に30年以上年齢が伸びているのです。年齢が伸びて行くスピードがあまりにも速すぎる為に日本と言う国家として見た時には、様々な矛盾が起きています。

法定特殊出生率という最近では少子化など色々と話題に上るので、皆さんもお耳に留めた事があると思います。法定と言っています様に15歳から45歳までの出産適齢可能年齢と言われている人達がこの年に平均何人の子供を産むのか統計して行って特殊計算を出します。今はそれが1.3で最低でも1.29で少し上がって来ましたが、去年2009年にはまた止まって来て下がったと言うことになります。

特殊出生率の基礎の数字など、統計で言えば労働人口とした物は、社会構造上80歳までの平均年齢にしては労働人口としてとられてしまうのは間違いでは無いかと思います。これから先の日本の平均年齢を考えて行くと、今の45歳の平均年齢が1歳増えるのに3年平成25年で46歳になり、平成28年で47歳になってだんだんと上がって行きますと、平成67年2055年いまから45年先には55歳に達します。

国の平均年齢が55歳で、昔は平均寿命が55歳と言う時代もあったのに平均年齢が55歳です。いかにこの国の人口構造が高齢化している姿が示されます。それでは今までとこれからを見るためにずっと過去を振り返ってみることにします。千年前の縄文早期は2万人いたという事が分かります。縄文前期で10万人を超して縄文中期には26万人くらいに増えました。ここから縄文の後期に向かってかなりの人口の第減少が起こります。

これは今から約4000年前の出来事です。今の日本に起こっていることは、この4000年前に起こったことから、4000年ぶりに訪れた人口減少期です。皆さんの歴史上、天明の大飢饉とか富士山の大噴火とか或いは戦国時代の戦乱だとか、様々な天変地異や自然現象、戦争など歴史的な社会的な事件と言う事が無くて、短期的に人が減ったと言う事は沢山あります。大飢饉やコレラなどはやり病で人がばたばた死ぬ等で人口が減少してしまうと言う現象は過去に沢山ありましたが、構造的にこの縄文中期から後期に向けて人を減らしたのと同じような事が起こっています。

つまり、人を産むと言う行為を減らすことによって減少する。今の言葉で言えば少子化です。子供の数と言うのは、どのくらいで人口が減らないのかと言いますと法定特殊出生率2.07人だと人口は減りませんが増えもしないと言う世代が置き換わって行く置換水準と言います。子供は基本的に2人の人が作ります。この2人が作って2人産めば次代が交代する。ちなみにここには団塊世代以上の方が沢山いますが、団塊世代の生まれた頃の法定特殊出生率は4.5くらいです。

6月12日(土)大人塾開講講演

当時平均的な日本の家庭には、4人半子供がいたということです。それ以前の戦前の日本では、10人兄弟や15人兄弟がざらにいました。今はTVでたまに大世帯の8男2女の家庭が大騒ぎといった番組を特別にアプローチして撮っています。戦前にもしもTVがあったら、これはうちでもそうだよと言う話になります。犬が人をかんだら記事にはなりません、人が犬をかんだら記事になります。つまり世の中で起こってないことを記事にするのが私たちの仕事だと言われたようです。新聞記者は犬が人をかんだということばかりを記事にしているようですね。

それほど大世帯が当たり前だった頃から見ると、子供の数が少ないので今は珍しいからTVで取り上げられるのです。どれくらい少ないのかというと、1.3人なのです。2人が作って1.3人しか生まれないので減ります。TV等ではこの間放送していました静岡県の清水市の何とかと言う町では、子供に対して非常に手厚い行政の政策がある。子供の医療費はタダで、保育園の3人目の子供はタダである等、色々なことをして全国や静岡県内から子供のいる人がこの町に集まって来ている。この町の法定特殊出生率は1.8人と平均をはるかに上回っていると言う番組を放送していました。

要するに今の世の中と言うのは、人が多い、人が増えるということは良い事なのですが、今のサイクルと10年ほど前のサイクルは、日本はこの先に増えすぎてしまうのではないのかという時代がありました。1950年代の後期に厚生白書という今の厚生労働省が厚生白書の1回目を出しました。1回目のサブタイトルが「将来の静止人口をめざして」タイトルなのですが、静止人口とは人が減らない、増えない状態で人口を安定させる為に厚生行政は何をしたら良いのかと言う事が白書には書かれていました。

その当時は少子化を嘆くのではなくて、人口爆発、人口が増えてしまって困ると言う事を嘆いていて、いかにして人を増やさないかと言う事を行政や政治は考えていました。その当時に出来た法律は、優生保護法と言う法律です。所謂、家庭家族計画という子供の数を調節するそんなに産むと大変ですよと言う、まさに今とは逆転です。

今が異常と考える。何が異常なのかと考えますと、江戸時代で多いときは1000万人でした。江戸の後期には3000万人になります。このときの江戸の人口は100万人で世界最大の都市と言われていました。江戸の人口が100万人で日本の総人口が3000万人で考えて見ますと、日本の人口が1億3000万人で東京の人口が1300万人で約10%の人が東京にいてそれが日本の首都です。江戸時代には10%から見ると遥かに少ない3.3%なのです。それだけ人口が全国に散らばっていたのです。

日本と言う国は、人が住むと言う環境から見ると人が住みにくい国なのです。皆さんは全国各地を見にいっちゃったことがおありだろうと思います。日本は結構広いとか日本と言う国は交通網が発達していて、どこに行くのにも短時間でいけるとお思いかも知れませんが。実は現在の日本の国で、人が住める土地と言うのは、23%程しかないのです。日本の8割近くは住めません。何故住めないのかと言うと、人が住むのに適していない形状をしている。山林や山岳、原野、川、湖等の人住むのに属さないところが8割で、人が

6月12日(土)大人塾開講講演

住むのに適している平野部は2割しか無いのです。

何故そうなのかと言うと、最近良くTV等で紹介されるプレートというものがあります。太平洋プレートやユーラシアプレート、フィリピン海プレート等、日本列島という島を乗せている岩盤のプレートと言う台があります。その台が移動をしている。つい最近不思議だと思ったことは、伊豆半島はその昔フィリピンの方にあっただけです。プレートに乗って日本に近づいてきてある日、日本列島にぶつかって日本列島を押し上げて来たのが富士山です。

今でも伊豆にシャボテン公園とワニ園と言うのがあります。なぜか伊豆半島に熱帯型のものがあると言うのは、昔は熱帯地域にあった時代と色々なことが関係していて他の本州とは土地の組成が違うのだそうです。

今、ハワイが日本に近づいているそうです。後数万年すると大島あたりにオアフ島がやって来て長生きするとその様なものが見られるらしいです。このプレートは日本列島周辺に集まっているのです。集まっていて押し合いへし合いしています。押し合いをしていると真ん中が盛り上がってきます。これが日本列島です。日本列島の構造と言うのは、北海道から九州まで中心部が総て山です。この間、TVを見ていたら面白い地域がうつっていました。川の源流は1本ですが、日本海側に流れるところと太平洋側に流れる源流があり、それを分水嶺(分岐点)と言います。その様な分水嶺が日本列島には沢山あります。奥羽山脈から中央アルプスから中国山脈から経てあります。そうすると山と言うのは高いところでありまして、そこから海側に向かって延々と斜面が続いているのが日本なのです。

島はどこでもそうなのかといいますがそんなことは無いのです。あの有名なイギリスが乗っかっている島は平らです。お隣のアイルランドと言う島も平らです。ちなみにアイルランドにある高い山は1000メートルを越えません。国土の9割以上が平野です。どこもかしこも緑の牧草地で別名がエメラルドアイランドと言われるくらいに全部牧場が出来るのです。

ところが日本はたった20数%しか人が住めません。ですからその様な国々と同じ意味で人口密度を測ってはいけません。ほとんどのところへ住める国は、何平米で何人だと人口密度を出せば良いのですが、日本の場合は国土面積と人口だけではなくて、人の可住面積すなわち人が住める面積で国土面積を割ると今の5倍になります。

江戸時代の3000万人これは日本列島の上に住むのに最適な人数です。今から40年ほど前に農業問題の研究所がもしも日本が農業だけで産業を作ったとしたら、いったい何人を養って行けるのかシュミレーションをしたことがあります。そのときの数字がまさに5000万でした。その後、農業と言うのは工場農業と言われる様な生産効率を上げた農業が進んで来ましたので、今のレベルで考えると日本列島の上には5000万人くらいは住めるかもしれません。

それ以上は農業だけでは無理なのです。そこで20世紀と言う世紀を日本と言う国は、工業を選んだのです。実際に人口の変動を見ますと、1860年の明治維新の時は3330万人で、

6月12日(土)大人塾開講講演

その40年ほどの後、1901年の日本の総人口は約4500万人です。明治と言う時代は明治維新時の3000数百万人から富国強兵政策。富国強兵はその当時黒船がやって来ていたアメリカ、オランダ、イギリス、ロシアの所謂列島諸国と日本は肩を並べて先進国に仲間入りしようとする為に産業を育成しようとしていました。

産業は日本の元々持っていた絹織物等の産業を基本に興すのですが、その産業の為に何が必要なのかと言えば、労働力です。そうした先進列強国に肩を並べるには、もう1つ人が必要なのは軍隊です。富国の次の強兵、つまり強い兵ですが明治政府は作る為にそれまでの江戸時代の人口政策と全く違うものをいい始めたのです。江戸時代は人口政策として行っていた訳ではないですが、何故に江戸時代は3000万人から増えなかったのか。江戸時代に今のような避妊方があるわけでも無いし、妊娠中絶が日常的にあったわけでも無いですし、ほっとけば人が増えてしまいます。

江戸時代後期の日本の封建制度というのは、これは世界のスタンダードとしては人を増やさないで国を運営する凄く頭の良い方法だと思います。それが長子相続制度と言うものです。どこの家でも家を継げるのは、長子のみで次男以降は所謂部屋づみということで、結婚も出来ないし、もちろん子供も作れません。何人子供を産もうが家を継ぐのは1人だけと言う事であれば、人は増えません。

どこかの家で子供が生まれないとか、男の子が生まれないうきの為に次男以降は養子要員です。江戸時代の偉人等の伝記を見ると、誰かの家に養子に行った等はざらにあります。つまりその頃は血のつながりよりも系図のつながりで、家を存続する為に例えば親戚、そうでなければ近所とか或いは何らかの伝手を頼ってかは分かりませんが、次男以降の人を跡継ぎとして迎える事によって家を繋げる。子供がいる家は長男が継ぎ、長男だけが嫁を貰って子供が作れる。

その土地で何人の子供が生まれようが、継ぐのは1人でその1人が死ねば、おなじみの徳川の大奥でもありますが誰がその後を継ぐのかと、1人しかいないから問題になる。分家がどんどん出来れば良いではないかと思いますが、分家が沢山出来るとそれこそ人口爆発になってしまって跡継ぎが出来ないということで、家は1個を保つことを継続的に守りましょうと言う事で3000万人という規模が守れたのです。

明治政府はそれを止めて、地方から大阪や東京の中心都市へ出て来て下さいよと、産業振興しますから、今まで次男以降の子供たちは部屋住みではなくて、一家を構えるために都市へ出て来て労働力として働いて、兵力として国を守って下さいと言うことをしたのが為に一挙に人口が増えました。1901年の人口4500万人から急激に増えて、その後1967年に日本国民は1億人を突破し、つまり半世紀で5000万人くらい増えたのです。

そして1970年くらいまで、日本は先ほど言いました静止人口、人口置換水準と言う人が増えもしない減りもしないと言う規模になりました。その後、1990年の所謂バブル崩壊の頃とほとんど時期を同じくして急に法定特殊出生率が減少してきます。何故減少してくるのかと言う事は、色々な意見がありますけれども、その内の1つの意見として言われる物

6月12日(土)大人塾開講講演

にホメオスタシスという自立機能のことです。

種が増えすぎると崖からどんどん飛び降りて人口の調節をする動物がいるという話があります。その後の研究で自殺をしている訳ではなくて増えすぎると落ちているという話らしいのです。

何事においてもその種が増えすぎると、その種を安定的に後世に生きさせるために人口を減らしてくると言う自立自動調節機能です。これが働くと生物学的には言うのだそうです。先進諸国の共通と言うのは、みな今は少子化とか人口減少が起こっている。もう1つ共通するのは長寿化が先に起こっているのです。つまり長生きをする人が増えれば死ぬ人が減りますので総人口が増えます。

長生きをしているペースと子供の数が減り始めているペースがほぼ同じくらいです。結果的に見れば、国は高齢の方へ中心を移して行きます。これを良く考えてみると少子高齢化と社会では言いますが、少子化と高齢化というのは全く別のことです。少子化というのは生まれる子供が少ないことをさしますし、高齢化というのは社会の平均年齢や人口構造を見たときに高齢者の数が増えるということです。高齢化の方は別の言い方をすれば、長寿化です。

長生きをするのがどうしてもめでたくないのか。長生きをするのは人類が勝ち取った成果なのです。そのために今まで勤めていた時代には出来なかった新しい趣味や新しい活動、人付き合いとか様々なことが出来る時間を沢山持った。人は80年生きますと約30,000日生きます。この30,000日を7,500日に分けてみますと、最初の7,500日が学習の時代です。その次の15,000日は、男で言えば労働で女性も最近はかなり割合で労働の時間です。そして残りの7,500日が余暇の時間なのですが、最後の7,500日は戦後の日本が獲得した成果です。

この成果を今この様に使って良いのかが分からない。これだけ急激に世の中が変化し始めたからです。この中には1950年前後にお生まれになった方々もいらっしゃると思いますが、その頃の生まれた方々の当時は人口の向上です。ほぼ三角形をしているこれが人口ピラミッドと言います。見るからにピラミッドです。2005年これが直近の国勢調査時における人口ピラミッドです。どう見てもピラミッドには見えません。

ピラミッドは表で見ると黒い部分の65歳以上と言うのが1950年の人口ピラミッドの下部の部分です。その部分が上にシフトして、同時に50年が経ちました。65歳以下の部分はどの様に考えてもピラミッドではありません。そこで皆さんに質問です。この中にはざっとお見受けしたところ、20代の方はそれ程に多くない様で、30代くらいの方から70代以上の方までがお集まり頂いている様であります。自分と同じ年に生まれた人口が1番多かった。つまり自分の同期が1番多かったのは、自分が何歳の時だったと思いますか？

「これはいったい何を聞かれているんだ」という顔をする方と、「一応考えてみようか」と言う顔をする方がいらっしゃいます。考えるまでもなく、5歳や10歳で生まれてきません。生まれた年が1番人口が多いのです。途中では増えず減るだけです。と言うことは、

6月12日(土)大人塾開講講演

アメリカ等の移民がある国は別として、毎年同じ人口が生まれたらば、人は年齢が上がれば増えません。諸外国から大量の移民がやって来て、30代が突然増えたということは、日本は原則的に移民はほとんどありませんので、日本で生まれた人は後は減るだけなのです。

毎年同じ数が生まれていけば、年齢が上がれば人口は減るので三角形になるわけです。ところがベビーブームで増えています。自分よりも年齢が上の人の人数が自分たちよりも多いと言うのは、いかに自分たちの人数が少なく生まれたのかということです。団塊世代といわれる日本で一番多く人が生まれた時代は、昭和22年生まれの私たちの年代に生まれた総人数は、約270万人です。

次に23年、24年25年の3月まで絞った形でいう団塊の世代であります。どの年代の年で見れば、生まれた人口は270万前後です。次に第2次ベビーブーマーと言われ別名を団塊ジュニアと呼ばれていました。団塊ジュニアとは、団塊世代の子供たちと言う事でライフスタイル等を受け継いでいると言われていますが、それは大嘘です。実際に団塊ジュニアと称される人たちを調査してみますと、団塊ジュニアと名前をつけられた人たちの中で団塊世代を親に持っている人はたったの3割しかいません。7割以上はそれよりも上の世代の人が親でした。

たまたま上の世代の人たちに加えてボリュームの多い人達が産んだので、人が増えたというのが事実です。ですから第2次ベビーブーマーと言うのは正しいし、2番目の団塊世代としてジュニア団塊と言うのは正しいのですが、団塊の子供だと言う団塊ジュニアは大間違いです。ですからいまだにその様なことを言っている人がいたら、笑ってあげてください。第2次ベビーブーム世代は240万人前後です。このあと第3次ベビーブームといえるような時期はありましたが、以降はなくなります。直近の子供の出生数は100万人ちょっとで、実に団塊世代の3分の1しか生まれていません。

この構造を見る限り日本はいかに高齢の方が多いか、それにしても社会構造がこのようなことを前提にしていないのです。労働人口というのはここままで、もっと先は先細って不安定なけしの状態になってしまいます。今の企業と言うのは、高卒や大卒の23歳くらいを新入社員として雇って、普通の企業で60歳までを定年として、その後は定年延長のようにそれまでの給与に比べれば本当に安い給与で良ければ働いても良いと言う働き方を公募しています。

昔は技術を活かす為に定年退職した後の方々を雇って技術の継承をしている企業もありました。しかしそれはエクストラとしてただけで、始めからその事を考えていたわけではないのです。その様なところを見たら、どの様なところをどのようにしたら良いのか分かると思います。

ちなみに日本の経営者は本当にその様なところを見ない人達なのです。皆さんも企業中に入っている人は分かると思います。つい先日も日本の大手の会社の人の話を聞きたい。わが社が将来はどの様になるのか、どれくらい先を考えているのかを聞いた所、「10年です」とのことでした。10年先が先々ではなく現実です。50年先はどの様になるか分からないと

6月12日(土)大人塾開講講演

いう会社がほとんどでした。

あの世界のトヨタでもグローバル企業のソニーでも、日本の大企業は皆そうですけれども、ヨーロッパの企業等は100年先を考えて様々な時代予測を企業が取り組んでいるのです。ロイヤルダッチシェルは1番に未来予測が進んでいる会社で、国際シンポジウムなどを会社がやっていたりします。石油事業というのは元々は限界があると言われていました。もしかすると石油は限界が無いという説も出てきていますが、所謂鉱物資源は枯渇すると言われていました。

将来、未来と言うのはとても自分の企業に影響があるので、遠くを見ていかなければいけないというのが実態です。日本は≡を見ると遥かに遠いところは考えないで近いところばかりを考えて行っています。ちなみにどれくらい高齢化をしているのか。有名な北海道の夕張市の一部が倒産してしまったという、市民病院も市役所も総て駄目になったところの高齢化率。高齢化率は65歳以降人口比率です。それが夕張市は41.7%です。つづいて北海道三笠市、大分県竹田市、北海道歌志内市と続いてこれらの地域が約40%弱くらいです。

先ほど2055年の日本の平均年齢は55歳と言いました。そのときの高齢化率が40%なのです。今の夕張と同じ状況に日本全国がなると言う事になります。そこまで後40年少しです。この40年間のうちに現在の夕張の教訓をしっかり活かさないと、日本全国の全行政が倒れると言うことです。杉並も例外ではないと思います。人口は減ります。個人的には人口を考えると減った方が暮らしは楽な暮らしになるはずですが。

日本列島の上には1億3000万人は多いのです。日本列島に1億3000万人がいると言うのを通勤時間で言うと、朝の7:30から8:30までのラッシュ時、夕方のラッシュ時と同じで、非常に込んでいる状態です。しかし昼間に電車に乗ればゆっくり座れます。明け方電車に乗ってもゆっくり座れます。それが2055年以降の日本の姿です。皆さん本当に惜しい事に早く生まれすぎたのです。なんとしても後50年間長生きをすると、とても空いた日本で暮らせるのです。

歴史から見て日本列島の上に1億人以上の人がいたと言うのは1967年から2047年くらいまでのたった80年間だけなのです。今は当たり前だと思うかもしれませんが、それは間違いなのです。今が変なのです。今が多すぎるのです。皆さんはたまたま1番込んでいるところに乗り合わせてしまったとても不幸な方たちなのです。それ以前の人というのは、ゆっくりの暮らしをしていました。

女性誌や週刊誌、或いはTV番組を見ますと、「スローライフ」や「ロハス」等と新しいスタイルの暮らし方といった事を言っておりますが、とんでもないです。その様なものはとくに日本人はやっていたので。江戸時代のライフスタイルは世界に冠たるスローライフそのものです。当時の日本と言うのは、世界の国の中でも衛生状態が物凄く良い国で、例えば長屋の熊さんが良く出てきます。あの名前はきちんとしたSAチューリーシステムが整っていたし、水道システムも整っていて衛生保険状態と言うのがとても優れていたと言われていました。

6月12日(土)大人塾開講講演

そう考えると千葉県浦安市は、日本の高齢化率が一番少ない高齢化率 10%で市の構成が 23 区を合わせたレベルで言えば、もっとも少ないところなのです。高齢が世の中にどのくらいの割合なのか。国連が定めた高齢社会は 65 歳以上人口が 14%以上です。そこに向かうプロセスとして 7%から 14%までの国を高齡化社会、それを過ぎて高齡社会になります。

日本は文字通り高齡社会になっています。日本の生産人口、15 歳から 60 歳までの人口で言えば 1995 年いまから 15 年前がピークでした。ここからはずっと下がってきて 2055 年の労働人口は 4595 万人になります。このときの将来人口推計で約 1 億弱ですから、たったの半分しか労働人口がないことになります。

世界の国の中で、何人で 1 人を養うのかという調査がありますけれども、現在高速で高齡化し始めています。中国では人口爆発に備える為に、非常に度が過ぎています。有名な一人っ子政策で子供は 1 人だけで 2 人以上は認めないという政策です。その結果その数年後から急速に高齡化していきます。急速に高齡化しているのが 2024 年くらいで 5 人で 1 人を養うという統計が出ています。いかに日本の高齡化が凄いか 2055 年では 1 人で 1 人を養うのです。1 人が働いて 1 人を食べさせるという、物凄い高負担です。

社会構造をこの方向に転換しなくてはなりません。2010 年は人口増加率がマイナス 2.44、総人口推定値で言うと 127,767,994 人で、100 年後 2110 年の総人口は 35,127,000 人で 100 年後は今の 3 分の 1 以下に減ってしまいます。

先へ進めていって西暦 3000 年の日本の総人口は 29 人、3100 年で 6 人 3200 年で 1 人と言う推定値が出ます。それ以降、日本列島は無人の島になります。そこにはタダ 1 人として生きている人はいませんが、2100 年日本の 3 分の 1 くらいの昔は 1800 年代のお終いから 2100 年の最初まで 19 世紀と 20 世紀と言う 200 年間だけが日本列島に住む多くの人達がいるが為に工業が進んで、最初のうちは織物とか医療器械、精密機器や電気、自動車と家庭の主要な機械製品の生産地となっています。

そういった製品を世界へ輸出して行った為に日本と言う国の経営が出来た。そろそろそういった物が中国やそれ以外の国に移転し始めています。これは先進国の出生率ですが、日本が 1.29、イタリアも 1.29、ドイツ 1.34 等々、中でもスウェーデンは国の面積はかなりあるのに人口減少はそのまま国が減びる現象に繋がるのです。

日本に比べれば遥かに実効的な少子化対策をスウェーデンではしています。昔の内閣の調査団がスウェーデンへ行った時の報告を聞きますと、スウェーデンの少子化対策は今の日本で言う子供手当が、1 人目が生まれる、2 人目が生まれ 3 人目が生まれると 2 倍と増えて行きます。なおかつ子供を産む間隔が短ければ短いほど割り増しがあると言う三の方策でスウェーデンは子供の生まれる率を増やしました。

フランスも様々な社会政策によって、子供を増やす政策をした結果、少子化の数が上昇し始めました。日本はと言うと子供手当云々が始まりましたけれども、絵に描いた餅になるような気運があって、本腰を入れるという状態にはありません。本当にそこまでして子供の数を増やさなくてはいけないのかと言う疑問があります。何故子供の数を増やさな

6月12日(土)大人塾開講講演

くてはいけないのかと国が考えているのかと言うと、社会福祉などの保障から考えれば、働く人口を用意しておかないと養われる状態に追いつかないと言うのが本当なのです。

良く考えてみると、自分で何とかすると、これから先はその様な覚悟を持ったほうが良いと思います。自分で何とかする、出来れば子供から分捕ってくる。それを各家庭内で行い、社会に求めてはいけません。ちなみに何故そんなことを思うのかと言いますと、日本全国これから先は、都道府県別人口と言うものをどの様な状況に変わるのか。都道府県別人口を指数化するとグラフで100%を超える都道府県はたった2件しかありません。赤い線は東京都です。東京都の水準は約100%です。いったん増えますが減り始めてほぼ100%の水準になるのが2050年です。

もう1つは沖縄県です。残りの45都道府県は、全部減ります。1番減っているのは秋田県です。人口が今の60数%になっていっています。何故沖縄はこのように増えるのか、元々子供の出生率が高く現在全国から沖縄へ移住し始めている。先日富山県の方とお話をしたときに、私は定年になったら石垣島に移住しようと思っているんです。石垣島でサトウキビの栽培をすれば農水省の補助金がかなりの額が補助されます。

サトウキビが収穫できなくても田を作るだけで出て、すれにプラスして沖縄は本島の7割くらいの物価数なので年金でも良い暮らしが出来るのです。その様なことを全国の方が考えたときに今は沖縄の石垣島だけではなくて沖永良部島等、いろいろな島で人が山ほど押しかけているので、地元の行政がとんでもないと思っているところが沢山あるのです。

日本やヨーロッパの先進国等の産業の発達している国の共通点と言うのは、四季があるということなのです。春夏秋冬があると言うのは、1季節を考えると余分な季節が3つあるのです。今皆さんは衣替えをなさって、セーター等をしまわれたと思います。これは全部が半年間在庫になります。暖房器具もそうです。

季節が1つしかない常夏の常春の国は在庫がいらぬのです。日本のように産業が進んだ国は、非常に多くのいらぬものを人のうちに置いて来たという競争なのです。お金持ちとはいかにいらぬものを持っているかと言う人なのです。極端な言い方をするとアロハとムームーで暮らしているハワイでは、アロハとムームーのラインアップは沢山あるかもしれませんがセーターは持っていないのです。

セーターも要らなければ暖房も要りません。どんどん省いていったら、本当に必要な必要な物だけで出来る社会と、今は要らないけど後で必要な物を沢山用意しなければいけないところでは倍も3倍も拡大するわけです。これが先進国というものです。ですからこれから中心国や後から経て行く国は真似する必要は無いのです。

日本で考えてみると、日本で先進国並みの地域は首都圏や関西圏です。和歌山県や愛媛県や新潟等は自分の土地で海が近くて魚も田んぼもあって米も果物もいっぱいあるところは、文化等要らないのです。京都と言う地域は日本でもっとも文化的で文化を反映することの無い地域です。ここは地場でまったく物が取れない。魚も遠い若狭から延々と持ってきて、腐ってしまいそうだから加工して高く買う形をつける。

6月12日(土)大人塾開講講演

例えば新潟等では米は旨いし魚は旨いしと言うところは、原材料以外の良い \equiv がいらぬのです。新潟へ行くとすし屋は沢山ありますが料理屋はあまりありません。加工しなくて良いところと、加工をしないと物が食べられないところの違いなのです。加工しなくて物が食べられないと言うのは、大体が先進国の共通なのです。

それに対してそうでなくても良いところは、文化等はいらない。人の暮らしは良く考えてみればどっちが良いのか良く分からない。

この本が生まれるに至ったのは、私は杉並区の社会教育センターの方々とお付き合いして、この大人塾の設立から今でもアドバイザーと言う関係でもあります。現在は杉並区の中で色々なお手伝いをしています。住んでもいないのですが、永福町の商店街の活性化のお手伝い等色々なことをしています。そういった地場の方々とお付き合いをしている。高齢化になる時代ということを実際に良く分かっていなければいけないのは、政治や行政の方だと思うのです。今の世の中はどんどん込んでくる時代なのです。

第2次世界大戦などによる日本と言うのを含めて、物凄い勢いで人が増えました。つい最近関西が政治家の仕事と言うのは、功を最小にすることが仕事であるとおっしゃいました。私は15年前、20年前から政治の仕事は、込んでくるとみんなの不満が多くなっていく。大事で言えば江戸時代の水争いです。日本と言う国は住める場所がとても少ないので、それを増やすために新田の開発や干拓と言うことで住む場所を増やす政策をずっとしてきました。

その住むと言うのは基本的には農業用地ですから、水が沢山要る。その水を人が増えてくると争うわけです。何かにつけ人が増えるということは、込んでくる言うことで、込んでくると人は不満が多くなる。喧嘩が多くなる。ある意味で住みにくくなる。労働の場も沢山の用意しなければいけない。このように人が増えてくる時代に、その人たちの不満を最小化するアイデアを考えるのが政治家の仕事です。

それを実行して人々の不満を最小に抑え、出来れば少しずつ満足感とか幸せ感を増やしてあげるのが行政の仕事であったわけです。ところが今から先の社会と云うのは、そうした背景にあった人が増えてくるという状況がなくなるわけです。極端な言い方をすると政治行政は、今をいかに維持するか、余計なことをしない。今あるものを新しく開発しようと思わない。新しく開発しても利用する人が減るので、今あるものをきちんと管理して次の世代に受け渡す。

これから先は人が込んで来ない訳ですから、空いてくるのです。例えば土地神話という物が15年位前にありました。土地は買って置けば下がらずにこれからの世の中は土地は買ってはいけない絶対にあがらない。今1億3000万人で分けている土地を100年後は3000万人で分けるわけです。絶対に土地の価格は下がります。今の3倍の面積が同じ価格で持てるようになるのです。経済力の原則でSV曲線と言う需要曲線と供給曲線のクロスしたところが価格になります。

これからは供給が増えないけれども、需要がどんどん減るわけです。ですから価格はど

6月12日(土)大人塾開講講演

んどんどん下がります。デフレ基調は当たり前です。インフレと言うのは1つのものを多くの人を買うから価格があがる。これからは1つのものを争う人の数が減ります。物もみな安くなるし、住みやすくなるし場所が空いてくるからラッシュも無いし、渋滞も無いし環境もほっといてもよくなります。

日本はうまくいけば、これから国際的な干渉無しにのんびりと暮らすべきなのではないかという気がします。動乱とか色々なことは隣の中国にお任せして、日本のことはほっといてくれと。今中国に対抗して何とかしようとしています。中国は人口の10%の高額所得者層だけで日本の総人口に匹敵する人口を持っている国です。日本が叶うわけが無いのです。しかも残りの9割は、つまり10数億人が少しずつ生活水準を上げてきて、所謂高度経済成長をし始めていますから、総てがかなりの水準になったら市場と言う意味で考えても、日本の市場の何百倍もの大きな市場が世界に標準を経て待っているわけで、世界の企業は中国に向けて行くに決まっているのです。

日本は隠れていた方が良いのです。昨日ある汽船会社の人とお話しをしました。汽船会社の取り扱っている品物の国内港発の物は1割無いそうです。7割が中国から世界に向けて発送している。日本の汽船会社がそうなのです。これが世の中の世代のビジネスのレートです。これから先それほど会社に常駐しなくて住んでいるコミュニティーをコミットしながら暮らして行くと言う事を選択するのであれば、是非そのためのノウハウとネットワークをこの杉並大人塾の中で獲得をしていただきたいと思います。

大人塾は大人塾の1年間だけではなく、卒業しますと大人塾連という仲間の連dせ活動出来ます。具体的な踊りは踊らなくていいですけども、色々なことで踊らされることはありますが、この連に参加して様々な自己実現をなさっている方が過去にもいます。社会起業家の方では、実際に起業を起す方達が新しいビジネスにトライをしている方もいます。

その様なことを通じて様々なクロスネットワークができるという為の大人塾です。大人塾は年間で各午前中と夜の部をあわせて100人弱、約80人くらいの方々がいらっしゃるのです。この80人くらいの方々が既に5年間で400人くらいいらっしゃります。なおかつ増えていって、その方々のご家族やご友人を含めれば、2000人くらいの方々が大人塾を知っているのではないのでしょうか。

杉並全区民が60万人弱くらいおりますので最低で、もう一桁10,000人から20,000人の人達が大人塾を知っていると言う状況にするために区民税でまかなう区の仕事に参加しつつ広報活動もやっていただいて、来年度以降2011年度以降も新しい大人塾の活動をしていきますので、今年だけに限らずこれから先の活動もご協力をお願いしたいと思っています。